



高木たけし



みよし剛史

発行：日本共産党
福山市議会議員団
津之郷町津之郷 970-1
084-952-2662

2022年度決算委員会報告

市のため込み195億円

暮らしは大変でも 暮らしに寄り添う 市税は大幅増収 手厚い支援を

2022年度の決算委員会が9月26日から10月6日にかけて行われました。一般会計の歳入では、法人市民税が企業収益の増加により約4億2千万円増、固定資産税が新型コロナウイルス感染症による中小事業者等への軽減措置の終了によって8億7千万円増などによって税収が約14億3千万円増えました。収支は約47億円の黒字です。

暮らしは大変でも 暮らしに寄り添う 手厚い支援を

市は物価高対策やコロナ対策を、ため込み金である財政調整基金を約68億5千万円取り崩して行いましたが、国からの臨時交付金が約38億5千万円交付され、新たに27億6千万円を積立てたため、財政調整基金は約195億で、2億円程しか使われていないことになりました。

倒産や廃業の危機にある中小業者への補助や、ケア労働者への処遇改善、学生や子育て世帯への手厚い支援は基金の活用で十分可能です。住民福祉の増進の立場で、大型公共事業への投資よりも生活支援に力を尽くすべきです。市議団は決算認定に反対しました。

御幸・木之庄町の浸水対策

森脇・大山ポンプ場を整備

森脇ポンプ場の整備工事に着手

平成30年の豪雨災害によって御幸町では広範な地域で浸水被害が発生しました。当時の議会での論戦で、高木たけし市議はこの地域の浸水対策として、長年手が付けられていなかった森脇ポンプ場の新設計画を進めるよう求めていました。

昨年、新設工事に向けて芦田川の堤防を管理する国土交通省と工法についての協議を行っていたことが明らかになっていましたが、今年の6月に国との協議が整い、工事が始まることになりました。工事に係る期間はおおむね6年間が必要となり、令和11年度の供用開始が見込まれています。

供用後は森脇橋北詰から駅家町上山守周辺の広い地域の排水を担い、大きな浸水対策の効果が期待されます。



森脇ポンプ場の集水区域図

大山ポンプ場のポンプ増設の計画

近年、局地的な豪雨でも、木之庄町周辺では度々道路冠水や浸水が生じています。昨年の決算委員会でも、高木市議がこの対策について、大山ポンプ場の強化を求め、「検討する」と答弁していましたが、先日の決算委員会でも高木市議が改めて質問したところ、今後ポンプの増設計画を策定することが明らかになりました。

引き続き、早期の工事着手を求めます。

認知症ひとり歩きメール配信「22件」

認知症高齢者対策の強化を

全国の認知症で行方不明になった人が10年で約2倍に増加しており、対策が求められています。

福山市は認知症高齢者のひとり歩き情報をメール配信していますが、2022年度は22件の情報を約5万人が受け取っていました。

今年度からメール配信を停止し、社会福祉協議会のLINE配信に切り替えました。

みよし市議は決算委員会で、情報発信方法の構築と対策の拡充を求めました。

